



特定非営利活動法人 生きものと食べものの未来

令和 8年10月

では、「生き食べ未来通信」 10月号をお届けいたします。

____ I N D E X _____

- ・ 巻頭言.....
- ・ 活動紹介..... 9月の活動実績 / 今後の予定
- ・ コラム：私の提言..... 進化を遂げた先に、ゲノムに残る痕跡
抗えない人口減少
- ・ 食べもの 紀行..... 8月末に20数年ぶりに上海、蘇州、無錫を旅行しました。
- ・ お知らせとご案内..... 新規のご加入や会員からの投稿を募集など
- ・ コーヒーブレイク..... 推薦図書
- ・ 編集後記



卷頭言



10月に入りました。暑かった夏が終わり、季節の移ろいを感じるこの頃です。8月の終わりに蘇州、無錫、上海と中国の江南地域を巡りました。中国は行ってみたいわが国ですが国内で伝わってくる情報と現地で見て感じるのとかなりのギャップがあります。20年前汚いと感じた上海はゴミ一つなく、近代化が進み、最先端のきれいな町に様変わりしていました。ガイドの説明を聞きながら、台湾有事などありえない、日中両国によるプロパガンダ（政治宣伝、日本人の嫌中、中国人の反日意識、価値観誘導）を感じました。日本より普及しているEV、キャッシュレス化、14億人を飢えさせない、豊かにさせるための、習近平の取組みに圧倒にされます。3泊4日の体験、「百聞は一見に如かず」中国旅行をお勧めします。

米の収穫を終え、2026年度産は750万トン超える見込みになりました。米価が上がれば、翌年は生産量を増やす。生産者なら当然の取組みが、コメ価格の下落を引き起こす。これでは農家の安定収入は望めない。政府がコントロールできない農政の失敗がずっと続く。日本の米作りに赤信号が灯りそうだ。米作りは、約1万年前から始まり、紀元前5千年の中国河姆渡遺跡で米作りの痕跡が発見されています。日本には、3千年前に北部九州に伝わり、日本中に広がりました。米作りは1万年、人の営みの積み重ね。生産性の発想はありませんでした。米作りのための水田は、カエルやゲンゴロウ、ユスリカ、トンボのヤゴなど多くの水生生物が暮らし、それらを餌とする昆虫、鳥類など多くの生きものの住処となっていました。先祖から引き継いだ田畑も人間にとって自然の恵みをいただく食べものの収穫の場であり、生きものにとって生活の場でもありました。最近突然、「農業は生産性が低い衰退産業。官民投資で成長産業へ、大規模化して食用米を大幅に増産し輸出に向ける」など言われ始めました。資本主義が台頭し、成果を図る指標として生産性や効率を取り入れてから200年足らずです。米は付加価値がつけにくい。水を加え炊くだけで、美味しくそのまま食べることができる。だから主食になったのです。麦はそのまま炊いても美味しくないので、粉にしてパンやうどん、パスタに加工します。加工すれば付加価値が付き、その過程で儲けられるのです。小麦は資本主義経済にピッタリであり、米は、それにそぐわないのです。米価格の暴落が始まりました。日本の生態系を維持し、未来に引き渡す。そのためには、国土保全、生きものの命を守るために、田畑を守り米作りが継続できるように「再生産可能価格」で購入する。そんな義務を消費者は担っている。最近強く思うようになりました。

『AIが人類を滅ぼす』アンソロピックやオープンAIのトップが危惧を表明しました。先進国では子どものSNS使用禁止国が増えています。日本では今頃義務教育でのAI利用を論じています。明らかに周回遅れです。簡単、便利、安さ、それらを求めすぎた結果の輸入依存、戦後の平和ボケの中で、アメリカにあこがれ、崇拜、トランプにも何も言えない属国日本。そろそろ自分の頭で、未来を、独立国家の在り様を考える時期に来たと感じます。10月号では、ホットな話題にスポットを当てて《生き食べ未来通信》をお届けします。

特定非営利活動法人 生きものと食べものの未来 理事長 川上龍太郎





活動紹介

9月活動実績

8日（火）鶴見運送訪問（竹田津）

場所：大分市 鶴見運送冷凍冷蔵庫物流センター

時間：14時～15時

社内研修：貨物搬出入時の注意点他

17日（木）ママミール社定期訪問（川上、竹田津）

場所：ママミール 本社事務所 福岡市南区

時間：14時～15時30分

学校給食の取組みなどに対する打ち合わせ他

18日（金）森光商店定期訪問（川上、竹田津）

場所：本社 鳥栖市 14時～15時30分

高オレイン酸大豆を使用した商品の発売などに関する情報交換他

キッコーマン無調整豆乳 「澄の香」（森光商店の高オレイン酸大豆使用）

発売開始10月7日 アマゾン、イオン一部店舗

★未来を担う理科好きの子どもへの事業：実験教室

日 時：9月21日（月祝日）13時～15時

場 所：[あすみん（福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4F）](#)

テーマ：マジック!?科学!? 透視実験

満足度100%で終了いたしました！

【今後の予定】

【10月】

22日（木）ママミール社定期訪問（川上、竹田津）

場所：ママミール 本社事務所 福岡市南区

時間：14時～

23日（金）森光商店定期訪問（川上、竹田津）

場所：本社 鳥栖市

時間：14時～

九州産業大学訪問 日時未定

鶴見運送訪問 日時未定

6日～7日 Food Expo Kyushu 福岡国際センター

14日～16日 食品開発展 東京ビックサイト

【11月】

18日～19日 FOOD STYLE Kyushu マリンメッセ福岡

【随時訪問について】

会員のみなさまからのご希望に応じて、訪問してお話をうかがう機会を設けることにしました。

「直接相談したい」「活動について話をしたい」といったご要望がありましたら、お気軽に川上（下記メールアドレス）までご連絡ください。日程を調整のうえ、訪問させていただきます。

mr_kawakami@energy.ocn.ne.jp

定期訪問は、「生き食べ未来」とコンサルティング契約を締結しているために行うものです。

★未来を担う理科好きの子どもへの事業：実験教室

10月はお休みです。11月3日・23日に開催予定となっております。





進化を遂げた先に、ゲノムに残る痕跡

600から700万年前にアフリカで誕生した人類の祖先は類人猿から原人、旧人、そしてホモ・サピエンスへと進化を遂げて現在に至っています。

9月5日のNHKの番組で「人類史」を扱ったテーマの番組が放送されました。シベリアやチベット、台湾などで見つかった謎の古代人類（デニソワ人）の発見が人類史上の常識を覆そうとしています。私たちホモ・サピエンスは、他の人類を淘汰したのではなく、彼らと出会い、交わりながらその力を受け継いできました。そしていま、なぜ、私たちだけが生き残り繁栄出来たのか、最新のゲノム分析で明らかになってきました。ゲノムの上には、旧人の遺伝子が残っており、交雑により環境へ適応し進化してきたことが推定できます。

現代人であるホモ・サピエンスは、6万年前アフリカを出て旧人である西アジア、ヨーロッパのネアンデルタール人、シベリア、チベット、台湾で発見のデニソワ人などと交わりながら世界中に移動し広がっていった。太古の生活を守るパプア・ニューギニアの先住民族バイニン族には、遺伝子上3%デニソワ人の痕跡が残るという。エスキモーは寒さに強い遺伝子を、バイニン族はマラリアに強い遺伝子を、高山地帯に住む民族は低酸素で生きる遺伝子をそれぞれ旧人から受け継いだことが明らかになった。日本人もわずかながらネアンデルタール人、デニソワ人の遺伝子を持っているという。

高地から寒冷地まで世界中のあらゆる環境で生きてきたホモ・サピエンス、新天地を目指した現代人の祖先は、ネアンデルタール人など同時期に暮らした人類の中で唯一生き残りました。そこには他の人類を滅ぼしたのではなく旧人を受け入れ、環境に適応したのです。ホモ・サピエンスは強い勝者ではありませんでした。いまでは、弱肉強食でない、決して強いものが生き残ったのではないことが証明されています。

日本人、中国人、アメリカ人、ヨーロッパ人、アフリカ人、現代人の一人一人のルーツをたどれば行く着く先は重なります。21世紀になって4半世紀が過ぎました。驚くほどに科学技術は進歩しました。同じ人類がウクライナや中東で殺し合いを続けています。一国の大統領が地球の支配者のごとく振舞っています。AIが人間の頭脳に置き換わる時代がやってきそうです。自分の頭で考えない。思考力、記憶力が低下してしまう。スマホをいじるだけの世界。既に脳が委縮し始めた人がいるという。これからは、ほんの一握りの人だけが進化し、残りは退化する。これは明らかに人類の退化の始まりです。

アフリカを出て、厳しい試練に耐えながら世界中に広がった祖先の苦労や何万年と続いてきた先祖の営みを考えると、現実のちょっとした苦労から逃れる選択やお金がかかる、面倒、他にやりたいことがあると子孫を残さない選択をすることは人類史的に見れば異常なことです。人類間の殺し合いがなく、貧困格差が無い時代、共同で助け合ってしか生きられなかった時代、その痕跡がDNAに残っているならば、現代人に蘇らせてほしい。テレビを見て、そんなことを考えてしまいました。

川上龍太郎





抗えない人口減少

人口減少は、今までこのコラムでも取り上げた。未来を想うなら一大事なのである。これに対していろんな意見がある。未婚者の3割が子供を望まずとの報道もある。人口減少に抗っても流れは止められないが、現代社会が抱える問題の縮図に思えてならないのです。

今年上半期、昨年比で出生数が増えたという。丙午にもかかわらず、だ。よろこぶには値しない出生率、増加とは言え、下げ止まりが見えてきたレベルです。

人口減少は、女子教育の普及、乳幼児死亡率の低下、マイノリティ政策、男女平等、個人の選択の自由が主な要因であり、これら要因は、「自由、平等、産まない選択が進んだ望ましい社会への変化である」と一部の人が好意的に言う。私はこの意見に賛同しかねます。理由は社会や経済が縮小する。人口減少はあらゆるところで測り知れない影響をもたらします。だからこそ、世界中の国々が対策に頭を抱えているのです。

世界中で人口減少が始まっている。昨年末の国連予測では、「2060年には世界の人口が100億人を超え、食料が不足する。」であった。しかしながら、最近の「The Economist」の記事では国連の想定以上に急速に人口が減っている。地球温暖化の影響を除けば、人口増による食料不足は回避できそうになってきた。むしろ食糧不足より人口減少が心配になった。日本では、2025年に出生率が1.2、東京都では1を切ってしまった。韓国では既に0.7である。予測を超えて減少しています。

世界一の人口14億5千万人のインドでも急速な出生率の減少が始まった。出生率が1.9まで下がり、人口維持に必要な2.1を下回っている。当面は人口が増え続けるが、既に出生率が激減しました。世界全体では3分の2の国が2.1を下回っている。出生率が高いのは、イスラエルとアフリカの一部のみとなった。このまま推移すれば100億人を超えることはありません。将来予測である人口シナリオが崩れたのです。

政府の子育て支援や授業料無償化、民間での出産祝い金や育児休暇の充実など、出生率向上に官民で様々な施策を行ってきました。「子育て支援」に至れり尽くせりの東京都では日本で最低の0.96を記録しました。出生率が向上するどころか、毎年最低を記録しているのが実態です。都会の一般家庭では、狭い住環境、教育費の負担、一人で精一杯なのです。既にいままでの出生率向上施策は、効果が無かったことを証明しています。

人口増へ、移民政策を考えてみた。どこの国でも所得が向上、出生率が低下しています。このままでは、来日するのは母国を捨てた「難民」だけになる。日本への留学生は圧倒的に中国人が多い。そのまま残れば日中友好促進、東アジアの安定、日本の人口減少対策として有効ですが、移民政策は所詮焼け石に水、またそれを嫌う人さえいます。

人口減少に抗うことをあきらめる時が来たようです。アジアの先進国シンガポール、既に出生率0.87。住宅価格高騰が、結婚や出産のハードルを高くしました。母親の67%が大卒、85%が就労中、日本より家庭に手厚い経済支援など行っても効果が無かった。東京の住宅価格高騰は益々少子化に棹をさす。都会に憧れ、経済も文化も一極集中した東京。その対価は大きい。次世代の人に人口減少を前提とした社会をゆだねることに申し訳なく感じます。

川上龍太郎





食べもの 紀行

8月末に20数年ぶりに上海、蘇州、無錫を旅行しました。湿気が多く、31.2度の気温ながら蒸し暑く、汗だくの旅行となりました。それでも1週間前の40度超えより随分しのぎやすいと現地の添乗員が言っていました。

江南地域は食の宝庫、種類が豊富な魚と野菜、稲作は数千年前から行われた地域、宋の時代既に二期作が行われた穀倉地帯、1000年以上続いた歴史ある街です。隋の時代から築かれた世界遺産の大運河は総延長2500キロに及び上海から北京まで物資を運ぶ現在でも海運に利用している大動脈です。古（いにしえ）と近代を感じながらの3泊4日の旅でした。

上海で今一番の人気スポット（THE LOUIS(路易号） ルイ・ヴィトンの船



市街地の賑わいに圧倒されました。シャネルやブルガリ、ヴィトンなど一流ブランド店が軒を連ねています。円安の為、ブランド品は上海では購入せず、日本に渡航して購入するとのこと。最先端の中国がありました。輸入品は関税が高く、トヨタのアルファードは2500万円、ユニクロが高級品になっていました。あちらこちらにスターバックスがあり、とても自分が抱く中国のイメージとかけ離れていました。

浦東空港から蘇州まで130キロを金曜日夕刻、大渋滞に巻き込まれ、4時間かけて移動。

蘇州料理 「松鼠桂魚甘酢餡かけ」



中国第3の淡水湖（太湖）は魚介類の宝庫。桂魚をから揚げにして甘酢餡をかけた料理。

骨が固く、鰻の空揚げのように食べられませんでした。

太湖は淡水真珠年間10トン世界一の生産量。あこや貝や白蝶貝でなく、カラス貝を使用し、核を入れずに養殖。装飾用は1割もなく、ほとんどが化粧品に使用されています。

無錫料理 豚肉を使用した料理が有名「スペアリブ」の煮込み



養豚や養鶏が盛んな地域で農産物がメインの料理でした。

世界遺産 京杭大運河（北京と杭州をつなぐ）水上バスからの眺め



無錫から160キロ。3時間かけて上海へ移動しました。

中国で一番ホットな街。上海。超高層ビルが立ち並ぶ浦東地区。



昔の佇まいの豫園。浅草のようでした。

リッツカールトン上海（宿泊先） ホテル前の路上イルミネーション



ホテルの朝食

ほとんど洋食メニューの中に中華メニューが混在

搾りたての西瓜ジュース（牛乳瓶） お粥（ピータンと豆腐餛飩）

ピータン（アヒルの卵の燻製）と豆腐餛飩（とうふよう：豆腐に紅麴を使用し発酵させた食べもの）



朝食を済ませ上海センター（超高層ビルが立ち並ぶ地域）を經由し、浦東国際空港へ。

最後にハプニング。中国東方航空の登場手続きカウンターが混雑の為、発券に1時間半かかりました。緊急用シールを手荷物に貼って、出国検査、手荷物検査を臨時ゲートで行い、搭乗口に着いたとき既に搭乗中、ほとんどの人が着席済み、なんとか間に合いました。免税店にも行けず、お土産も買えず、両替もできませんでした。無事福岡に戻りました。携帯もスマホもスイッチオフの旅行、ホテルのテレビニュースで、福岡県庁と議会棟が映し出され議会の混乱を伝えていたのには驚きました。中国は近い。台湾有事はありえない。一般市民にとってどうでもいいこと、日本政府が言っているだけのこと、そんな印象を持ちました。東京より近くて安い、安全で清潔な街に変貌「百聞は一見に如かず」。ぜひ上海旅行をお薦めします。

（川上龍太郎）





お知らせのご案内

【連絡コーナー】

会員からの投稿を募集します。wordで作成1,000文字程度

テーマは会員に役に立つと自ら判断するもの、ジャンルは問いません。
尚、コピーや生成AIで作成したものはお断りします。

掲載分について、謝礼として図書カードを贈ります。

右のリンクからでもお受けいたします。



info@npo-ikitabemirai.org



これを機会に積極的な《生き食べ未来通信》への参加をお願いいたします。

尚、投稿に関して以下の通りとします。

- ・匿名希望が無い場合はお名前を掲載します。
- ・原稿掲載は事前確認をせずに事務局の判断で行います。

又内容を一部改変する場合があることのご了承をお願いします。

【ご寄付とご加入について】

ご寄付並びに会員入会報告

新規加入、ご寄付はありませんでした。



今年度から賛助会員の入会条件が変わりました。

ご寄付の金額が3,000円以上で賛助会員となります。

会員の加入条件は変更ありません。

従来通り、入会金5,000円、年会費3,000円 です。

尚、当NPOが主催するセミナーでの講師や《生き食べ未来通信》への投稿などを前提に入会する場合、入会金を免除することがあります。

【会費納付とご寄付のお願い】

2025年度の会費未納の方は、2026年度分と併せての納付が可能です。ご入金をよろしくお願い申し上げます。尚、2026年度分は、既に年会費とご寄付を受け付けております。

会費と寄付金振込先

福岡銀行 湊町支店（216） 普通1458561

西日本シティ銀行 港町支店（216） 普通3089256

名義：特定非営利活動法人 生きものと食べものの未来

年会費 法人：5,000円 個人：3,000円 ※振込手数料は支払人負担でお願いします。

会員のみなさまへ

このたび、会員のみなさま向けに、これまで『生き食べ未来通信』でご紹介した書籍の貸し出しを始めることになりました。

過去にご紹介した書籍もご利用いただけますので、ぜひご活用ください。



【貸し出しについて】

- ・ 書籍はレターパック等で会員登録のご住所へお送りします。
- ・ 貸出料金は当面無料です（送料は相互負担となります）。
- ・ 貸出期間は2週間です。
- ・ 1回につき2冊までお申し込みいただけます。

【お申し込み方法】

下記メールアドレスまで、お申し込みください。

mr_kawakami@energy.ocn.ne.jp

メールには、以下の内容をご記入ください。

- ・ お名前
- ・ ご住所
- ・ ご連絡先（携帯電話番号）
- ・ ご希望の書籍名

みなさまに、さまざまな本との出会いを楽しんでいただければ幸いです。

どうぞお気軽にご利用ください。





◆推薦図書：

すごい古典入門

レイチェル・カーソン『沈黙の春』 科学に「いのち」は見えるの？

著者：中村桂子 発行所：中央公論新社



『沈黙の春』は1962年に刊行され、DDTを発端とした農薬による環境破壊を提起した世界的ベストセラー本である。私は学生時代読むことは無かったが『沈黙の春』はあまりにも有名であり知っていた。著者である中村氏は生命科学の泰斗江上不二夫氏の愛弟子、御年90歳。早稲田や東大での教授を経て、現在JT生命誌研究館名誉館長である。2024年には「人類はどこで間違えたのかー土とヒトの生命線」、2025年に『日本の「食」が危ない！ 生命40億年の歴史から考える「食」と「農」』を執筆している。何が執筆に駆り立てているのか。

「2020年代の生成AI」は「1950年代の農業」と同じ。地球、生きもの、人間という全体の中でどのように考えるかというテーマであると思えるという。生成AIをどのように活用するのかは、よくよく考えなければならぬと警鐘をならす。そこにあえて「沈黙の春」を紹介した意図を感じました。あらためて『沈黙の春』渡辺政隆訳を読んでみることにしました。

「四得摂りのすすめ」

著者：吉野敏明

発行：扶桑社



著者は、現役の歯科医師であるとともに精神科病院理事長でもあり、現在「日本人の命と健康を守る真実の医療」を提言すべく政治団体を設立、それらの活動している。

四得とは、「米」「海の幸・山の幸」「発酵食品」「旬の食べ物」のことである。

日本の風土、四季の移ろい、海と山に囲まれた豊かな自然環境の中で、私たちの祖先は、試行錯誤を重ねながら、「どうすれば健康やかに生きられるか」を探し続けてきた。だから、四得。米を主食とする。海や山の幸を食べる。豆や野菜を発酵させる。旬のものをいただく。これらは、「昔ながらの食事」でなく、日本人の体を作ってきた「生存の知恵」という。本書では、この四得を詳しく説明、この主張には同感します。「食」を単なるお腹を満たし、生命を維持するための食べ物としてではなく、古代から引き継がれてきた日本の文化が凝縮したものにとらえてみるのは如何でしょうか。健康的な食事を気にする人に薦めたい一冊です。



編集後記

(く)のベランダでは、朝夕の水やりで、植物たちが元気に葉っぱを広げています。少しやわらかくなった日差しに、「これから是一日一回の水やりで大丈夫かな～」と期待しています。そして最近は、ちょっとお花が咲く観葉植物も欲しくなってきました。どんなのがおすすめですか？

会員の皆さまからの投稿、引き続きお待ちしております。テーマは、環境・農・食、教育、福祉など何でも構いません。

また、企業のご紹介やイベントのおしらせ・よろずご相談などなど、どうぞお気軽に下記メールまでお知らせください。



mr_kawakami@energy.ocn.ne.jp

WEBサイト・FBページ・インスタ もあります。 マークをクリックして、覗いて見てくださいね！



(く)

令和8年 10 月 発行責任者 川上龍太郎